

2020年5月14日
株式会社東陽テクニカ

**仮想化環境可視化/解析ツール「Uila」のオプション製品
「Network Device Monitoring」発売**
～ 仮想化環境と物理ネットワーク機器の接続可視化と問題切り分けに ～

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝、以下東陽テクニカ)は、仮想化環境の問題の切り分けや、ボトルネックの可視化を行うための解析ソフトウェアツール「Uila(ウイラ)」の新しいアドオンオプション「Network Device Monitoring(以下 NDM オプション)」を2020年5月14日に販売開始いたします。

「NDM オプション」は問題のあるネットワークデバイスやポートを特定するための機能を持ち、仮想化環境だけでなく、スイッチやルーター、ロードバランサーといった物理ネットワーク機器の情報までを可視化し、サーバーとネットワークに生じる問題の切り分けに加えて、ネットワーク機器やポートの問題の特定もできるようになります。



ネットワーク機器のポートの状態

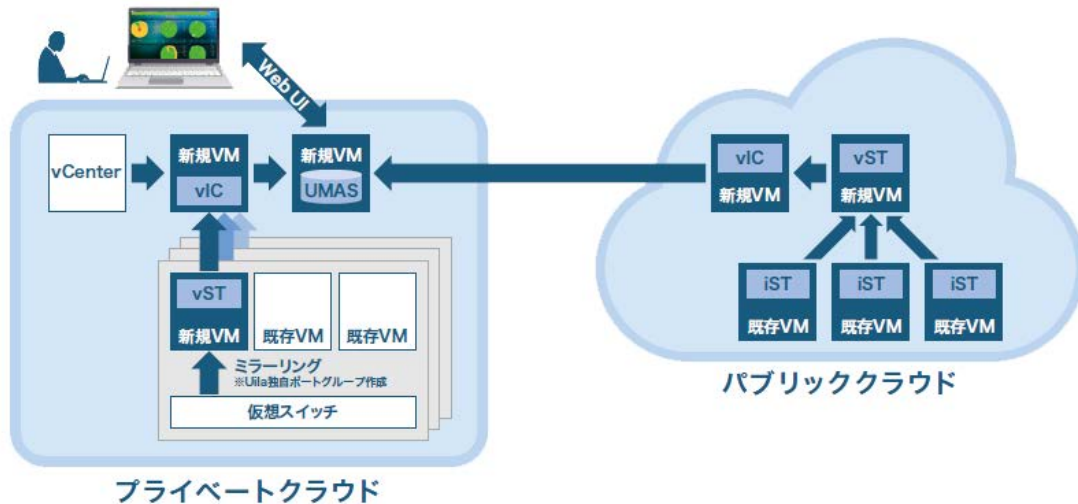


サーバー間に存在するネットワーク機器の特定

< 背景・特長 >

仮想基盤/VDI(仮想デスクトップ基盤)の可視化、分析、最適化に特化した解析ソフトウェアツール「Uila」は、オンプレミス仮想化環境 (VMware/Hyper-V 環境はエージェントレス導入) とパブリッククラウド (AWS/Azure/GCP など) における VM(仮想マシン)の構成と VM 同士の通信の連携、システム上のボトルネックを可視化できます。例えば遅延の問題に対してアプリケーションと基盤のどちらに原因があるかの切り分けや、データセンター、クラウド環境への移行前後やその他環境を変更した場合などの調査にも有効です。

この度発売する「NDM オプション」はサーバーに加えて物理ネットワーク機器の情報を可視化することにより、「Uila」一つで仮想化/物理環境と物理ネットワーク環境を統合的に可視化します。エンドツーエンドでの可視化、ボトルネックの特定、仮想基盤/VDI とネットワーク、外部環境(SaaS、クラウドなど)の問題切り分けに活用できます。



「Uila」構成

< NDM オプションの主な特長 >

● マルチベンダーのネットワークデバイスをサポート

仮想/VDI 基盤の外部やホスト間にあるネットワーク機器とインターフェースの、それぞれのステータス(利用状況、輻輳、エラー、廃棄など)をモニターできます。

● アプリケーション依存関係マップとの連携

アプリケーション依存関係マップを自動的に構築し、品質が落ちているネットワークと、アプリケーションパフォーマンスへの影響を確認でき、仮想マシンから接続しているネットワーク機器やその詳細情報をドリルダウンして表示します。

● WAN(Wide Area Network)リンクのモニタリング

WAN リンクの稼働状況、パフォーマンス、他のネットワーク機器との接続状態を可視化します。

● 詳細なネットワーク情報を取得

ネットワークデバイスの詳細なヘルスステータスと構成設定情報を取得できます。

取得可能な情報：

- ネットワークデバイスベンダー名
- モデル名
- OS バージョン
- 稼働時間
- シリアルナンバー
- VTP ドメイン
- 詳細な説明
- IP/MAC アドレス など

< 製品情報 >

- ・製品名：Network Device Monitoring オプション
- ・発売日：2020年5月14日
- ・参考価格(S-NDM-STARTER-KITT 100ポートライセンス)：1,120,000円(税別)
- ・製品ページ：https://www.toyo.co.jp/ict/contents/detail/Uila_NDM.html

< 「Uila」の主な機能 >

■ エージェントレスで通信アプリケーションや VMware の通信の連携を可視化

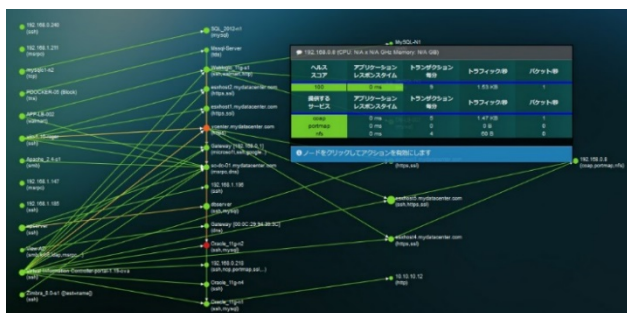
仮想化基盤の新規 VM に「Uila」をデプロイするだけで始められます。通信パケットを DPI(Deep Packet Inspection)分析するため、3,000 種類以上のアプリケーション識別とトランザクション情報の取得、レスポンス測定を常時行います。

■ データベースへのクエリも可視化し、特別なノウハウ無しにボトルネックを特定

アプリケーションサーバー、データベースサーバー間の通信パケットからデータベースへのクエリやステータスのみを抽出し、時間のかかっている操作を特定します。

■ VM やクラウドインスタンスの適切なリソースサイジング

VM やクラウドインスタンスの CPU、メモリ、ストレージ、ネットワークの性能を可視化します。サイジングや割り当てが適切であるかを評価することで、リソースの増強やシステムの更改前に改善が必要な点を明らかにできます。また、アプリケーションプロセスを取得することで、メモリークなどの問題も見つけることができます。



「Uila」画面イメージ

< 株式会社東陽テクニカについて >

東陽テクニカは 1953 年の創立以来、世界最先端の計測機器の輸入販売を行ってきました。現在の事業分野は、情報通信、自動車、エネルギー、EMC(電磁環境両立性)、海洋、ソフトウェア開発、ライフサイエンスなど多岐にわたり、独自の計測技術を搭載した自社製品の開発にも力を入れ、国内外へ事業を拡大しています。「はかる」技術で未来を創る」のスローガンのもと、5G(第 5 世代移動通信システム)の普及や自動運転車開発なども支える最新ソリューションを提供することで、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト : <https://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 情報通信システムソリューション部

TEL : 03-3245-1250(直通)

E-mail : uila-sales@toyo.co.jp

「Uila」製品紹介サイト : <https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/uila.html>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。